

もりおか

広報

2018

2月15日号(No.1475)

◆主な内容◆ (平成30年2月15日号)

多頭飼育崩壊	2ページ
児童センター・児童館、就学援助、病児・病後児保育、パブリックコメント実施、市指定駐車場などのお知らせ	3ページ
国民健康保険	4～5ページ
各種講座情報	6～7ページ
子育て情報ひろば、健康ガイド	8ページ
タバコの煙の害	10ページ



部員たちと今大会で走行したBeluga 2号

物作りが好き。自分の作ったパーツで車が走るのがうれしい——。

本年度のワールド・エコノ・ムーブ・グランプリジュニアクラスに出場した盛岡工業高自動車部（福士誠也部長（2年）、部員12人）は、昨年11月までに行われた4戦のレース成績で他校を圧倒し、最終戦を待たずに初めて全国1位を確実にしました。

5月の第1戦後に3年生は引退し、第2戦からは1・2年生での挑戦。「先輩が抜けた不安に負けたくない、それまで以上に自分の担当作業に責任感を持って打ち込んだ」とドライバーの高橋和杜さん（2年）。バッテリー管理担当の室坂彩人さん（2年）も「大会では常に集中できていた。練習を何度もしていたので、ドライバーとの通信も冷静に対応できた」と振り返ります。大きなボディから細かいネジまで部品の一つ一つを部員全員で作りに上げ、組み立てた車2台がコースを疾走。物作りへの情熱と練習の積み重ねは、大学や企業など全90台が参加する総合クラスの中でも3位に食い込む好成績を生み出しました。福士部長は「この結果は指導してくれた顧問の先生のおかげ。それと、普段から何でも言い合えるチームワークのたまもの」と笑顔で語りました。

車作りに対する真剣な眼差し——。部員たちの向上心は尽きることなく、これからも物作りの道を走り続けます。

●ワールド・エコノ・ムーブ・グランプリ

電気自動車技術の向上などを目的とする大会。2時間の走行距離を競い、全5戦の集計で上位を決定する。本年度は5月から12月まで秋田県など5府県で開催され、全国から90台、うち、高校生以下のジュニアクラスは43台が参加した



盛岡工業高自動車部、自作の車で頂点へ——